

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	まめの木		
○保護者評価実施期間	令和6年 9月 2日		令和6年 12月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 20名
○従業者評価実施期間	令和6年 10月 1日		令和6年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年齢別・小集団クラスを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達段階に応じた、2歳児から5歳児までの年齢別・小集団クラスを行っている。 個別での取り組みを必要とする場合には、別室に移動するなどの対応を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス全体のねらいに加え、個々のねらいや目標も明確にし、プログラム立案を行う。 質の高い支援を継続して行えるよう、内部研修・外部研修・他事業所との連携を充実させ、計画的に行うことで職員の専門性向上に注力する。
2	児童発達支援事業・保育所等訪問支援事業の多機能型事業所として運営を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 主に、児童発達支援の利用児に対する訪問支援を行っていることから、園の様子から必要と考えられる具体的な支援内容を療育に活かすようにしている。 家庭や園でも必要な支援や配慮を日常生活の中で取り入れてもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、園や学校・保護者・療育間での連携を行い、それぞれの場で、特性を理解し、同じ思いをもって子どもに関わることができるよう支援を行う。 引き続き、園や学校現場の様子を知ることで、療育プログラムや就学に向けての支援に活かす。
3	保護者との情報共有のしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> 保護者による送迎を行い、顔を合わせて話す機会を確保している。また、部屋の窓がマジックミラーのため、クラスの様子を外から見学できるようになっている。 クラス後、保護者向けにフィードバックの時間を設け、プログラムのねらいや実際の様子を伝えている。 定期的に保護者会を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、保護者同士や保護者と職員が顔を合わせて話すことのできるような時間を設ける。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	各種マニュアルの策定や災害を想定した避難訓練等の情報が伝わっていない。	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に避難訓練等を行い、実施報告を行っているが、欠席等により全ての保護者に周知ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種マニュアルや避難訓練報告等について、定期的に、月便りやホームページ、掲示にて情報発信を行う。
2	施設の老朽化	<ul style="list-style-type: none"> 子ども用トイレがない。 施設設備がバリアフリーではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども用便座の設置を行っている。 早急な改修工事は難しいため、危険が予想される個所への指導員の配置や、子どもへの付き添い、保護者への声掛けを行う。
3			